

教 養

我が国における医療・福祉分野の就業者数は、2002 年から 2021 年の約 20 年間で 410 万人増加し、約 8 人に 1 人が医療・福祉分野で就業している。

一方、我が国の人口は今後も減少することが見込まれており、2040 年の医療・介護サービスの需要から推計すると医療・福祉分野の就業者数は 96 万人が不足するとされている。

近年、平均寿命が伸び、長い人生を支える健康を維持していくことは、QOL（生活の質）の向上に加え、就業者数の増加、介護費等の抑制等により持続可能な社会づくりにも資するため、医師や看護師等の医療の担い手を確保し、医療提供体制を整えていくことが必要である。

そこで、次の問いに答えなさい。

問 1 医療現場を取り巻く今後の課題について、あなたの考えを述べなさい。

問 2 医療を支える担い手を将来にわたって確保し、安定的な医療提供を行うためには、社会全体としてどのような取り組みを行えばよいか、あなたの考えを述べなさい。

専 門

※ 問題は【問 21】まであります。

【問15】～【問18】に関しては著作権保護の理由により非公表となっているため、
【問21】の次に例題を掲載しています。

【問 1】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

日常的な生活場面で生じる些細ないらだちごとを『 ① 』ハッスルという。

【問 2】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

ある刺激によって本来生じる感覚のほかに、異なる感覚が同時に生じる現象のことを『 ① 』という。

【問 3】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

エインズワースら(Ainsworth, M. D. S. et al.)が提唱した、『 ① 』法による再会時のアタッチメント 4 タイプは次の分類に分けられる。

Aタイプ	回避型	養育者に再会時よそよそしい関わり
Bタイプ	安定型	養育者と再開後すぐに安定して関われる
Cタイプ	『 ② 』型	養育者と再会後に不安定で怒りを表出する
Dタイプ	無秩序・無方向型	養育者に接近と回避の関わりが同時にみられる

【問 4】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』法とは、擬似貨幣（例えばシールなど）を適切な行動ができた場合に与え、一定量貯めるとクライアントの望む物と交換できる方法のことをいう。

【問 5】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

知能検査WISC-Vで算出される主要指標は、言語理解指標(VCI)，『 ① 』指標(VSI)，『 ② 』指標(FRI)，ワーキングメモリー指標(WMI)，処理速度指標(PSI)の 5 つからなる。

【問6】

次の文の空欄①，②，③，④に当てはまる語句を答えよ。

ユング(Jung, C. G.)は，内向，外向という基本的態度とは別に心の活動の形式を4つの機能に分類した。それは，『 ① 』，『 ② 』，『 ③ 』，『 ④ 』である。

【問7】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

「手を伸ばす」という意味の英語から派生した言葉で，『 ① 』とは訪問支援のことをいい，クライアントが住む家や地域に支援者が自ら出向いて支援を行うことをいう。

【問8】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

発達障害者支援法第二条第一項において「発達障害」とは，『 ① 』，アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害，学習障害，注意欠陥多動性障害その他これに類する『 ② 』であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

【問9】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

デュルケム(Durkheim, E.)は，社会規範の混乱や弱体化が犯罪の原因であるとする『 ① 』理論を提唱した。

【問10】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

人が亡くなることに対する喪失体験から，いかにして立ち直るかの支援を行うことを『 ① 』という。

【問11】

次の文の空欄①，②に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』とは，ウィニコット(Winnicott, D. W.)が，毛布，タオル，ぬいぐるみなど，乳幼児が特別の『 ② 』を寄せるようになる，おもに無生物の対象に対して当てた用語である。

【問12】

次の文の空欄①，②に当てはまるものを1～8の中からそれぞれ選べ。

樹木画において『 ① 』は，木の高さをミリメートルで測定し，これを被検者の年齢（暦年齢を月まで数えたもの：月は年の分数で表す）によって割って算出された指数を『 ② 』指標と呼んだ。

1. カレン・ボーランダー(Bolander, K.)
2. コッホ(Koch, K.)
3. ルネ・ストラ(Stora, R.)
4. アダム(Adam, H.)
5. ヴィトウィンシュタイン
6. ノイシュバンシュタイン
7. ヴィトゲンシュタイン
8. リヒテンシュタイン

【問13】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

引きこもり，ドメスティックバイオレンスなどにかかわるとされる，問題を抱えた相手を受け止めたりコントロールしたりする関係に，自分のよりどころとして過剰にとらわれる状態を『 ① 』と呼ぶ。

【問14】

次の文の空欄①に当てはまる語句を答えよ。

『 ① 』は，災害から個別被害まで，幅広い種類の心的外傷体験者のPTSD関連症状の測定が簡便にでき，横断調査，症状経過観察，スクリーニング目的など，我が国でも広く活用されており，22項目より構成されている。

【問19】簡記式

障害者差別解消法における『合理的配慮』について簡記せよ。

【問20】簡記式

『代理受傷』について簡記せよ。

【問21】簡記式

『注意欠如多動症(AD/HD)』について簡記せよ。

トールマン (Tolman, E.C.) とホンジック (Honzik, C.H.) による潜在学習の実験に関する記述として妥当なのはどれか。

1. ネズミに迷路を報酬なしで探索させると、当初は報酬ありの統制群に比べて遂行成績は伸びなかったが、報酬を導入した途端に遂行が急激に改善した。
2. 踏み板を踏むかひもに触れるかするとドアが開く仕組みの箱にネコを入れると、初めのうちは偶然に脱出するが、徐々に効率よくドアを開いて脱出できるようになった。
3. 回避不可能な状況で電気ショックを与え続けられたイヌが、回避可能な状況において、自ら電気ショックから逃れようとせずうずくまったままであった。
4. アカゲザルに対し同じタイプの弁別学習を行う課題を複数連続して取り組ませると、最初はチャンス・レベルであった正答率が漸進的に上昇し、最終段階ではほぼ完全正解に達した。
5. チンパンジーが箱や棒がばらばらに置かれた^{おり}檻の中で、箱を押すなどの行動レパートリーを組み合わせることによって、天井につるされたバナナを試行錯誤によらず取ることができた。

アッシュ (Asch, S.E.) は、架空の人物の特徴をいくつかの特性語によって提示し、そこから印象を形成させるという手続による一連の実験を行った。この実験に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 初めの方に提示された特性語が最終的に形成される印象に大きな影響を及ぼすという新近効果を見いだした。
- イ. 個々の情報に基づく印象が寄せ集まって全体的印象ができるのではないことを示した。
- ウ. 同じ特性を組み合わせて人物を記述する場合、その提示順序を変化させても同じような印象が形成されることを明らかにした。
- エ. 同じ特性語であっても、他に提示される特性語が異なると、その文脈によって意味が変わることを示した。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

ベイトソン (Bateson, G.) が唱え、家族療法に影響を与えた「ダブルバインド」の説明として妥当なのはどれか。

1. 両親世代の問題が子供の世代に伝播^{でんぱ}される家族投影過程が、多世代にわたり生じることである。例えば、父親の持っている自分の母親に対する問題が、形を変えて、子供の母親に対する問題となっていることをいう。実際の治療では家系図を用いることもある。
2. 否定的な意味を肯定的な枠組みに変えることである。例えば、「子供の問題に無関心な父親」と不満を持つ母親に対し、「口出しせずに見守ることができている父親」と表現を変えることで情緒的色彩を構築し直し、問題解決の糸口にする。
3. 家族のサブシステム間の境界線である世代間境界が侵害されることである。例えば、いわゆる母子密着は夫婦サブシステムと子供サブシステムの境界が不明瞭になったことによって生じた事態と考えられる。
4. 二者関係で、一方が言語レベルであるメッセージを発しつつ、非言語レベルではそのメッセージと衝突するメッセージを発することである。例えば、手をつなごうとした子供に、母親が身をこわばらせ、子供が手を引っ込めると、「私のこと好きじゃないの？」と母親が尋ねるような状況である。
5. 症状や行動をあえてやってみるように指示することである。指示に従えば症状のコントロールができたことになり、従わなければ症状をあきらめることになるので、いずれにしても症状の克服に結び付くことになる。

論述問題

次の事例を読んで、①初回面接の留意点や把握すべき内容、②見立て、③その後の対応、の3点について、あなたの考えをそれぞれ述べよ。

- ・ Aは中学1年生の女子。中学校に入ってから友人関係が大きく変わり、先輩や他の中学校の友達と遊ぶようになり、深夜に帰ることも増えていった。
- ・ 母親が厳しく注意すると、Aはその場では謝るものの、話が終われば何もなかったかのように遊びに出て行ってしまう。
- ・ Aは遅刻も増え、学校では授業中ほとんど寝ており、先生から注意されても改善が見られない。
- ・ ある日、自宅のAの部屋から大量の化粧品と見慣れない洋服が見つかった。持っていた理由についてAは「先輩からもらった」と説明した。
- ・ Aの生活態度を心配した両親が、Aを連れて少年サポートセンターへ相談のため来所した。

◎ Aに関する情報

- ・ 家族は、父親、母親（両親は共働き）、高校生の兄がいる。
- ・ Aは「家にいても、お母さんに怒られてばかりなので、外で遊んでいる方が楽しい」と話す。
- ・ 母親は「兄は何も問題はなかったのに、Aがどうしてこんな子になったのか分からない」と話す。